

令和6年9月26日

保護者様

伊勢崎市立第四中学校
校長 結城 啓之

4月18日(木)に3年生対象に全国一斉に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために毎年行われているものです。内容は、「知識」と「活用」を一体化した問題からなり、国語・数学の2教科で実施されました。また、「生徒質問紙」により、学習意欲・環境・方法・生活など各生徒の生活習慣や学習内容を把握するための調査もありました。本校の結果が届きましたのでお知らせします。

1 結果の概要

(1)【国語】 ○成果 ▲課題 *今後の対策

知識及び技能に関して「我が国の言語文化に関する事項」についての正答率は、全国平均を上回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「情報の扱い方に関する事項」は全国平均を下回っている。

思考力、判断力、表現力等は、全国平均を下回っている。

○本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択すること。

○物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものをそれぞれ選択すること。

○物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択すること。

○行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択すること。

▲話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む

▲本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択すること。

▲本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約すること。

▲短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替えること。

今後の指導のポイント

* 授業や読書指導等を通して、物語を読み深める学習を継続していく。

* 引き続き、地域の方に協力をお願いしながら、書写指導の充実を図る。

* 本や新聞を通して活字に触れる機会を積極的に設けると共に、読んで理解したことを用いて話し合ったり書いたりするといった言語活動の場面を積極的に設定する。

(2)【数学】 ○成果 ▲課題 *今後の対策

4つの領域「データの活用」「数と式」「図形」「関数」「データの活用」に関する問題の正答率は全国平均を下回っている。

「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する問題の正答率は全国平均を下回っている結果となっている。

○簡単な場合について、確率を求めること。

▲文字を用いた式で表すこと。

▲事柄が成り立つ理由を説明すること。

▲グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈すること。

▲判断の理由を数学的な表現を用いて説明できること。

▲筋道を立てて考え、証明すること。

今後の指導のポイント

* 基本的な学習内容を理解できるように、計算の課題を継続して取り入れていく。

* 生徒が興味関心を持つような授業の問いを設定する。

* ペア学習やグループ学習の中で、数学的な表現を用いて自分の考えについて説明し合う場面を繰り返し設定する。

(1) 自分自身について

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」「先生は分かるまで教えてくれていると思う」「先生がよいところを認めてくれていると思う」「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合は全国平均を上回っている。

(2) 人間関係について

○「困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「友達関係に満足していますか」と答えた生徒の割合は全国平均を上回っている。

(3) 家庭生活について

○「朝食を毎日食べる・起床時間が一定している」「放課後や週末に家族と過ごしている」は全国平均をやや上回っている。

▲「一日当たりのテレビゲーム、SNS や動画視聴に費やしている時間」については、2割の生徒が「4時間以上」と答えており、全国平均より非常に多い。

(4) 家庭での学習について

○「平日に家で1時間以上勉強している」「休日に家で1時間以上勉強している」と答えた生徒の割合はほぼ全国平均と同じ結果となっている。

▲「新聞を読んでいますか」という質問に、8割以上の生徒が「ほとんど、または、全く読まない」と答えており、全国平均より多い。

(5) 地域や世界との関わりについて

「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合は全国平均を上回っている。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」については、8割近くの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えており、全国平均を上回っている。

(6) 学校での学習について

○「ICT 機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」では「とてもそう思う」と答えた生徒が全国平均を上回っている。「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が全国平均とほぼ同じ結果であった。

▲「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」「学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」「分かったことやよく分からなかったことを見直し、次の学習につなげることができているか」では全国平均を下回っている。

3 全国学力・学習状況調査の分析から

◎校内研修で、『主体的に学び、豊かに表現できる生徒の育成』～「教科の魅力伝える指導の工夫」を通して～をテーマに、各教科の特性を生徒に味わわせ、生徒が主体的に学習に取り組むような支援を行っています。今回の結果を踏まえて、授業においては、生徒が課題解決に向け、自分の考えをきちんと持ち、仲間と協力して、お互いの考えを伝え合いながら、個々の考えをより確かなものにする学習活動の工夫を進めてまいります。

◎自分だけでなく人との関わりを大切にしようとする生徒が多いことがわかりました。人間関係についても悩み事などの相談ができていると感じている生徒が多いこともわかりました。

◎一日に4時間以上テレビゲーム、SNS や動画視聴に費やしている生徒の割合が全国に比べて多いことがわかりました。この件については、学力向上や豊かな心への影響があることから、学校運営協議会等で話題にして、学校だけでなく、家庭地域と検討していきたいと考えています。

◎ICT 機器を活用し、友達の考えを参考にしたり、比較したりする生徒の割合が高いことがわかりました。一方では、自ら考えて、主体的に学習に取り組む態度や家庭学習の取り組み方に関しては課題も見られることもわかりました。引き続き、学校・家庭・地域と緊密に連携し、生徒の成長を後押しできるよう指導してまいりたいと考えております。